

『血脇守之助の歯科医学概論』*

森 山 徳 長**

要 旨

50年間にわたり高山・東京歯科医学院、東京歯科医学専門学校の学校経営に全力をつくした血脇守之助の歯科医学概論の出発点を、カリキュラムに的をしぼってくわしく述べた。彼の足跡は、それ自身が、草創期日本歯科医学のカリキュラム編成の生みの苦しみと、成長の歴史であった。

This article described in detail the organization of dental curriculum which consisted the starting point of the orientation of dentistry worked out by Dr. Morinosuke Chiwaki who had devoted his life to the management of the Takayama and Tokyo Dental College for as long as fifty years. His footprint itself was the history of the labor of birth and development of the curricula of the early Japanese dentistry.

(キーワード Key words)

歯科医学概論 Orientation in Dentistry, 血脇守之助 Morinosuke Chiwaki

I は し が き

本論文は現在 100 年の歴史を誇る東京歯科大学

の前身、高山歯科医学院幹事時代の、血脇守之助の歯科教育学科課程に対する考えを出発点とし、東京歯科医学院々長となった血脇が、歯科医学教育カリキュラムを、どのように編成しようとしたかを中心に述べようとするものである。

記述の都合上先ず 1) 歯科医学概論の定義と範囲, 2) 学校経営者としての血脇守之助の経歴, 3) 高山歯科医学院講師・幹事時代, 4) 東京歯科医学院長時代, 5) 明治30年代後半のカリキュラム論争, 6) 東京歯科医学専門学校時代の順序で述べる。本シンポジウムの趣旨は、歯科医育の開拓者の考えかたを史料的にまとめ、さぐることにある。そこで1947年の歯科教授要綱にある歯科医学概論の内容のうち、その(2)学習の順序、すなわちカリキュラムに的をしぼって論述を進めることとした。歯科医学概論の中心は学科課程であるとするのが本稿筆者の理念である。

II 歯科医学概論の定義・範囲

Orientation in Dentistry が、字義の通り「歯科医学の進むべき方向を示し原理・目的等に対する態度を確定すること」であるとすれば、明治初・中期の orientation は、まさしく東の方向から海を渡って来た米国歯科医学に対し、東面していたといえる。その範囲も当然米国歯科医学のそれであった。血脇が医術開業歯科試験に合格し、高山歯科医学院幹事兼講師に就任した明治28年(1895)頃は、米国においても歯科の各科目が細分化する、発展と分化の時代であった。高山の意を体してスタートした血脇の「概論」はそれに対応して進化の歩みを開始したのである(図1)。

この時点の歯科医育機関は、ほかには愛知歯科

* Symposium—In Search for the Roots of the Orientation in Dentistry. “The Orientation in Dentistry thought about by Dr. Morinosuke Chiwaki of the Tokyo Dental College”

** Norinaga MORIYAMA, Tokyo Dental College 東京歯科大学

本稿の要旨は第18回日本歯科医史学会総会及び学術大会シンポジウム(1990年9月29日、於日本大学会館)で、シンポジストの一人として口演した。



図 1 東京歯科医学院創立時 30 歳頃の血脇守之助肖像

Fig. 1 Portrait of Dr. Morinosuke Chiwaki, ca 30 years of age, when he started the Tokyo Dental College

医学校しかなく、わが国の歯科教育はいわば暗中模索の状況であった。

III 学校経営者としての血脇守之助の経歴

明治 3 年生れの血脇は幼くして漢籍に通じ、当時一世を風靡していた英学を明治学院その他に学び、結局慶應義塾を卒業し、新聞記者として社会にデビューした。さらに中学校の英語教師を経て、明治 26 年春高山歯科医学院に入学した。入学して早々のこと、院長の外遊に際し、院長の米国での演説原稿の英訳を短時日で完成して信任を得、学生的身で学院の幹事見習となった。そして 2 年後、医術開業歯科試験に合格して正式に教職者となり、高山歯科医学院の実質的な番頭役をつとめた。その弁舌、文章の才は万人の認める所で、学院機関誌歯科医学叢談を創刊、主筆をつとめた。

その後高山院長から学院を譲り受け、東京歯科医学院を設立して、血脇の自前の orientation は始まったのである。

東京歯科医学院長として明治 33 年より 7 年半、東京歯科医学専門学校長として明治 40 年から昭和 18 年奥村鶴吉に校長職を譲るまで 38 年、名誉校長となり大学昇格をその目で見て天寿を全うした昭和 22 年までの 4 年を加えて計 50 年の間、血脇は歯科医育機関の長であった。その生涯は歯科医学概論の創始者であり、推進者であり、完成者であったといえる¹⁾。

IV 高山歯科医学院講師・幹事時代

高山紀斎の高い理想は、現実の壁にはばまれて大変な困難の中に進められた。血脇が免許に合格し正式に幹事と教職となって、院長に具申した血脇の建議により、学校としての体制は学院の卒業試験の実施、院友会の発足、歯科医学叢談の発刊等によって大いに整備された。

このように、歯科医士（当時の呼称）となって間もない血脇は、弁舌家、文章家として歯科界に早くも頭角をあらわしていた。折しも医術開業歯科試験規則の改訂の噂が巷に流れるや、血脇は直ちに筆を執って叢談に一文を投じた。曰く

『試験規則改正の風説を耳にす——天籟生』

彼の論旨は現行（明治 17 年施行）歯科試験規則の試験科目は、第 1 歯科解剖及生理、第 2 歯科病理及治術、第 3 歯科用薬品、第 4 歯科用器械、第 5 実地試験の 5 科となっている。「規則制定の当時は歯科の程度甚だ揚らず従って試験科目を高尙にすれば登第者跡を絶つの憂あり已むなく歯科解剖及生理とか歯科用薬品とか極めて簡易なる課題の下に局所試験を行いつつありしが今日に至りては歯科の進歩著しく、問題も亦往日の程度にあらず……」そして当時の普通医試験科目との比較を論じて、「隔靴搔痒」「歯科の品位を墜すこと果して幾何ぞ」という具合に論旨を展開し、学科の名称を以下のように改正しなければならないと提案する。すなわち、下記の如き改称案を示し、出題方法についても意見を付している。

従来名題	改題私見
歯科解剖及生理……………	解剖学
	生理学
歯科病理及治術……………	歯科病理学

歯科外科学

歯科用薬品 …………… 歯科薬物学

歯科用器械 …………… 歯科補綴学

血脇の狙いは、医士試験にくらべ遜色の明らかな歯科試験科目の合理化とレベルアップを計る、理路整然たるものであった。

なお、歯科補綴学は在来歯科器械と慣用されているが、義歯補綴の術を論ずる学なのでこの名称が適当と信ずると書いている²⁾。

事実その後、叢談の抄録欄で、『歯科補綴術問答』と題してカリフォルニア大学歯科部の Charles Boxton の問答形式の論文訳を4回にわたって連載した³⁾。(この分野の器械学から補綴学までの名称変遷の道程については別論文に詳報する予定である。)

なお前述の論説で、血脇は「当時受験には医士2名の保証状が必要とされていたものを、歯科医士の保証で足りよう改正すべき」と説き、陳情に奔走し、この提案の主旨を実現している。

このように高山歯科医学院後半数年で、血脇の果たした役割りは大きかった。この時期は血脇の歯科医学概論の萌芽期といえる。

V 東京歯科医学院長時代の歯科医学概論

高山紀斎から学院の名義のみを引継いだ徒手空拳の血脇は、東京歯科医学院発足の当初、高山歯科医学院講義録にならって先ず講義録を発行することとした。この時期は自前の歯科医学概論の生みの苦しみと産婆役の時代であったといえる^{4,5)}。

この講義録の高山歯科医学院時代との違いは、基礎医学と臨床歯科医学の教科を画然と分ったことである。みづから執筆した歯科治術学で、血脇は歯科医学の方向と教科目の分類について、次の様にその考えを述べている⁶⁾。

『先ず米国における学課目を見ると、解剖学、生理学、歯科病理学及療法、歯科組織学並に歯科手術学、歯科器械学、外科学、化学、薬物学、歯科法医学等である。成書も大ていはこの区別に従って書いてある。病理書でも手術書でも、開巻第一に解剖組織の講釈があり、全く蛇足に過ぎない。實用一点張りの米国では怪しむに足りない

が、日本人の目から見るとおかしく思われる。私の理想からいえば、純粋な歯科学は以下の様に分類するのが至当である。

①歯科解剖学、②歯科組織学、③歯科生理学、④微生物学、⑤歯科病理学、⑥歯科薬物学、⑦歯科治術学、⑧歯科器械学、⑨歯冠継続術、⑩歯冠架工術、⑪歯列矯正術、⑫歯科法医学

日本において確たる決まりは無いが、医術開業歯科試験は①歯科解剖②歯科生理③歯科薬品④歯科病理⑤歯科治術⑥歯科器械となっており、学の子を省略したのは制定当時の事情で已むを得ないとしても、区別はまあこんなものであろう。ただし実施にあたっては米国流の間違った解釈で出題されているのはなげかわしい。(大意)』血脇はこの考えにそってカリキュラムを育てていった。

前項でも述べたことではあるが、血脇は米国流直輸入のカリキュラムが気に入らなかったようである。ただし、米国内自体が急速に変化しつつあったことも、またたしかであった。

血脇はまずとりあえず自分の考えに従って編集した東京歯科医学院講義録(明33.3~34.6、筆者はこれを第一集と呼ぶ)が完結するや直ちに、新たに教授陣に迎えた米国帰りの佐藤運雄 D.D.S., M.D. や早川可美良、水野寛爾らの新進の卒業生を執筆陣に加えて「歯科医学講義」(第2集、明35.4~37.12)をスタートさせる。ここでも血脇は治術学を執筆し、「治療学と手術学を合せたものが治術学」と定義する⁷⁾。学院も自前の校舎を持つようになり、院外生も増加して数年の間に4万部以上の講義録が発行された。これらに盛られたカリキュラムで、血脇の歯科医学概論は一応の形を整えたといえる。

VI 明治30年代後半のカリキュラム論争

明治36—7年頃は、歯科ジャーナリズムでのカリキュラムの論評がにぎやかな時代であった。そして、その素地として3つの要素があったと筆者は考える。

第1は医師法制定問題に端を発して、歯科医の業権拡張のための全国的大同団結が至上命令となった社会的背景である。

Table 1 The Classification of Dental Science (1) and 4-year System Curricula of Dental Schools by Dr. Shinpei Izawa (2)

280

界をリードする現東京歯科大学の基礎を作った。

本論文ではその経過をそのルーツを主に概説した。以上の発展は具体的には、講義録、教科書の発達という形で実現されたことが、比較書誌学的見地から鳥瞰できる²⁰⁾。

参考文献

- 1) 松宮誠一(血脇守之助伝編集委員会)編：血脇守之助伝。学校法人東京歯科大学，昭和54年2月24日。
- 2) 血脇守之助(天籟)：試験規則改正の風説を耳にす。歯科医学叢談9号(2巻4号)明治30年7月。
- 3) 血脇守之助：歯科補缺術問答1～4。歯科医学叢談6～9号(2巻1～4号)，明治30年1, 3, 5, 7月。
- 4) 長谷川正康・森山徳長・石川達也・高添一郎：東京歯科医学院の学制・教授陣・教科書等について。日本歯科医史学会々誌，14(2)：89～96，昭和62年12月。
- 5) 森山徳長・石川達也・長谷川正康：東京歯科医学院講義録(第一輯)の書誌学。日本歯科医史学会々誌，14(2)：97～101，昭和62年12月。
- 6) 血脇守之助：「歯科治術学」，東京歯科医学院講義録第一輯，第一号明治33年3月25日発行。
- 7) 血脇守之助：「歯科治術学」東京歯科医学院講義録第二輯「歯科医学講義」(合本)，明治39年11月。
- 8) 伊沢信平：歯科学探究方針私議。大日本歯科医師大会記事，60～65頁，明治36年4月1日。
- 9) 血脇守之助：高山歯科医学院の過去並現在ノ状況。高山歯科医学院，東京，明治28年5月。
- 10) Op. cit. 1) pp. 68～70。
- 11) 遠山椿吉：医術の本義について。歯科学報，9巻3号1～12頁，明治37年3月。
- 12) 奥村鶴吉：歯科医術及医学の本義并ニ分科ニ就テ。歯科学報，9巻4号1～6頁，明治37年4月。
- 13) 佐藤運雄：「所謂歯科医学」ノ名称及分類ニ就テ。歯科学報，9巻5号11～20頁，明治37年5月。
- 14) 奥村鶴吉：再ビ歯科医学ノ意義及其分科ニ就テ。歯科学報，9巻6号1～7頁，明治37年6月。
- 15) 佐藤運雄：再ビ所謂歯科医学ノ名称及分類ニ就テ。歯科学報，9巻7号1～7頁，明治37年7月。
- 16) 大伴直守：歯科医学ニ於ケル疑議管見。歯科学報，9巻8号，6～21頁，明治37年8月。
- 17) a) C.P. ブライン氏述：歯科ハ医科ノ一分科ナルヲ論ス。10～15頁，b) ローガン氏述：歯科ハ医科ノ分科ナラス。15～23頁，歯科学報，9巻12号，明治37年12月。
- 18) 長谷川正康・森山徳長・石川達也・高添一郎・金竹哲也：東京歯科医学専門学校の学制・教授陣・教科書等について(その一)。日本歯科医史学会々誌，17(2)：89～96，1991年2月。
- 19) 東京歯科医学専門学校編：昭和15年度入学要綱。昭和15年3月。
- 20) 森山徳長・石川達也・長谷川正康：明治期歯科医学書の比較書誌学的研究。日本歯科医史学会々誌，17(1)：59～63，1990年9月。